

電気信号と強権政治

稲宮 健一

かつて自由主義陣営と共産主義陣営に別れて、自分の方が優れていると主張し合っていた。しかし、ソ連の崩壊で変わった。中国は社会主義と言っているが、共産党(国家)による国家資本主義で国内に他の存在を認めない。日本を含め、西欧、米国など自由主義国は民意や、人権が尊重されこれと異なる。しかし、中国のような強権政治に傾く国々が多い。先ごろではミャンマーが議会政治をひっくり返し、軍人が実権を握った。

オーディオ機器ではハイファイの特性が重要視される。音楽の収録が原音に忠実であるのは勿論、再生の電気信号も原音と同じであるばかりか、再生音に雑音が入ってはならない。純粋な一通りを追求し、この音質が気に入らなければ全体をとりかえるしかない。これはアナログの機器で求められる特性であって、デジタルの分野では様子が全く異なる。デジタル信号は0と1しかない。相手に信号を伝える時は0であるか1であるかを伝えるだけで、0や1の波形が雑音で形が相当歪んでいても、0か1を認識できれば十分な情報の伝達ができる。

さらに進んだ通信では0と1の数十個の組み合わせの一群で、0相当か、1相当を送る。この場合、信号が相当雑音で歪んでいても、受け手が予め定められた規則に則り、0が受かるはずとか、1がわかるはずとか予測して信号を認識すると、雑音に埋まれるぐらい歪んでいても信号を読むことができる。一度読めれば雑音を排除し綺麗な0や1に再生できる。

これを社会のシステムに譬えると、強権政治はまさにハイファイの特性を狙った形態になる。雑音を排除し、もっぱら一通りの自己主張を押し通す。これに対して、デジタル通信では、雑音を最初から排除しないことと、雑音に埋まった信号から民意に相当する送信者の意志を受けて信号を解釈する。まさに自由社会の慣例に近い。雑音も信号ととらえる通信では雑音混じりの通信路でも信号を理解でき、意思の疎通を図ることができる。